

株主メモ

- ◎ 決算期 7月31日
- ◎ 定時株主総会 10月
- ◎ 基準日 7月31日
- ◎ 株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
- ◎ 同事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
- > 郵便物送付先 〒183-8701 東京都府中市日綱町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- > 電話照会先 (住所変更等用紙のご請求) 電話 0120 - 175 - 417
(その他のご照会) 電話 0120 - 176 - 417
- > インターネット
ホームページURL <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
- ◎ 同取次所 住友信託銀行株式会社 全国各支店
- ◎ 名義書換手数料 無料
- ◎ 公告の方法 電子公告により行う。
ただし、電子公告によることができない、やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載する。

Recycled Paper
再生紙使用

2353

証券コード：2353

第16期 中間事業報告書
平成18年8月1日～平成19年1月31日

<http://www.n-p-d.co.jp/>

NPD
NIPPON PARKING DEVELOPMENT

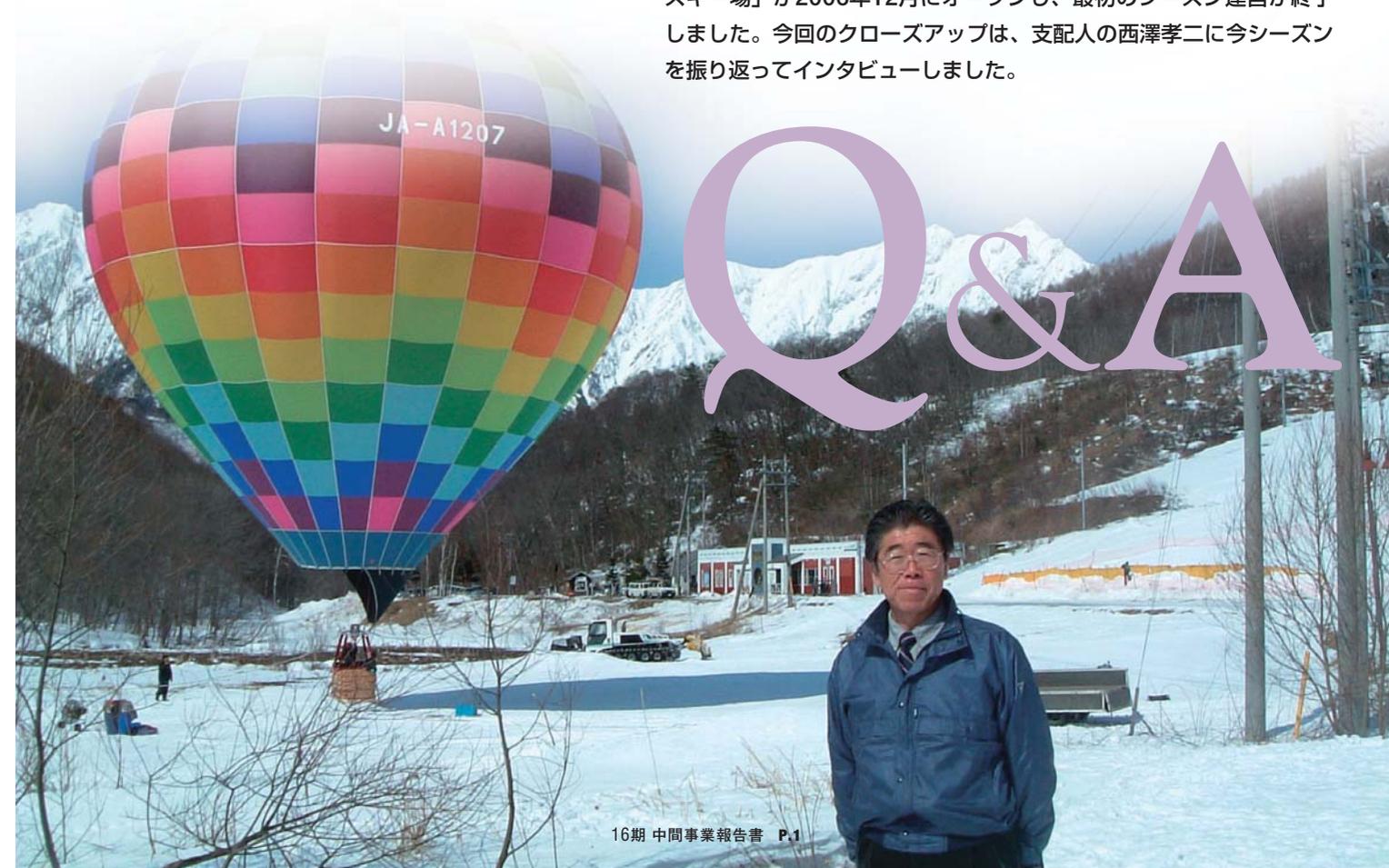
日本駐車場開発株式会社

Contents

- 01 クローズアップ
- 04 スポットライト
- 06 トピックス
- 07 株主の皆様へ
- 08 連結決算の概況
- 09 連結決算データ
- 10 財務情報
- 12 株式情報
- 13 会社概要

サンアルピナ鹿島槍スキー場 今シーズンの営業を終えて

日本スキー場開発が初めて手がけるスキー場「サンアルピナ鹿島槍スキー場」が2006年12月にオープンし、最初のシーズン運営が終了しました。今回のクローズアップは、支配人の西澤孝二に今シーズンを振り返ってインタビューしました。





100%子会社として、スキー場の開発・再生のために設立されました

Q1: 今シーズンのスキー場運営を終えての感想

A1: 夢多き新会社で再スタートを切らせていただきました西澤でございます。今シーズンは、今までに経験したことのない、本当に厳しい雪不足のシーズンでした。しかし、9月1日に新生サンアルピナ鹿島槍が発足し、経営陣による新しい風が吹き込まれたシーズンでもありました。レストランの大改修、営業内容の大幅な見直し、経費削減計画、販売促進の見直し等、今まででは考えられない着眼とスピード展開でした。どん底にあると言われるスキー業界に旋風と上昇気流を巻き起こし、牽引車となりうる要素がいたる所に感じられました。厳しい状況下でも幾筋かの明るさも見出すことができ、2年目となる来シーズンに大きな期待を抱きシーズンを終了しました。

Q2: スキー場改善のポイントについて

A2: 昨シーズンはレストランの改装を行い、スキーができるレストランとして生まれ変わりました。スキーを楽しむだけでなく、食事を楽しめるレストランとしてご好評いただいています。また、リフレクソロジーなどのサービスも新たに開始しました。お客様の誘致に関しては、長野県内にある学校のスキー実習の誘致など、県内からの顧客誘致とともに、東京・名古屋・大阪の都市圏からも30代・40代のスキーから遠ざかっている世代を中心に集客を行いました。さらに、地元の方々にも気軽に家族でスキー場に来ていただくために、週末ごとに雪上運動会や熱気球フライト体験などのイベントを開催し、家族で楽しめるスキー場づくりを行いました。



Q3: 来シーズンの運営方針について

A3: 昨シーズンは記録的な暖冬の影響もあり、厳しいシーズンでしたが、来シーズンは平日の集客を増やすとともに、満足いただけるサービスを提供し、顧客単価の向上を図っていきます。そのために、スキー場本来の商品であるゲレンデ、林間コース等のリニューアルをし、雪不足でも滑走できるように夏季整備を実施していきます。また、長野県内のお客様を増やすために、毎週末のイベント実施や各種大会を誘致するなど固定客の囲い込みに努めたいと思います。

Q4: 株主様へのメッセージ

A4: 株主様へのサービスとしては、リフト優待券を配布し中央駐車場（一般の方は有料）を無料でご利用いただけるほか、リフト優待券の提示でバレーサービス(車の回送)又はポーターサービス(荷物の運搬サポート)をご利用いただけるようにしました。来シーズンもさまざまなサービスをご用意し、株主様のご期待にそえるよう、日々精進してまいります。末永いお付き合いと、私どもサンアルピナ鹿島槍スキー場をご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本格派レストラン&ラウンジ「レッドシーダー」

スキーやスノーボードを楽しむお客様だけではなく、スキーをしない方も食事をしたくなるレストランとして誕生した「レッドシーダー」。秀麗なる鹿島槍ヶ岳を間近に臨むことのできる質の高い施設、葉膳鍋なども揃えた充実したメニュー、そして心のこもったサービスにより、お客様に好評を博しております。



「Club Area」

黄色い格子に囲まれた「Club Area」は、混雑時の場所取りに苦労しない有料の専用スペース。ここでしか味わえない特別メニューやワイン、シャンパンも取り揃え、フルサービスで食事を提供しています。



スキー・スノーボード大会の開催

2007 FIS Snowboard SBX鹿島槍Cup & 第2回ジャパノクロスセレクション in 鹿島槍を3月19日から21日まで開催し、白熱したレースが繰り広げられました。来シーズンも今年以上にスキー・スノーボード大会を誘致していきます。



損保ジャパン仙台一番町ビル駐車場

仙台の第1号物件として2007年1月20日にオープンした「損保ジャパン仙台一番町ビル駐車場」をご紹介します。総合デパート「藤崎」へ徒歩1分と、お買い物にも大変便利な駐車場です。

県外からのお客様も多く、イベントの開催時には大盛況となります。仙台のメインストリート「青葉通り」、歓楽街へ向かう「国分町通り」の交差点にも近いので、一日中お買物を楽しみたい方はお得な1日料金でぜひご利用下さい。



仙台では現在3ヶ所の駐車場を運営しています

1. 損保ジャパン仙台一番町ビル駐車場
2. 穴吹仙台一番町駐車場
3. 仙台ホテル駐車場

<損保ジャパン仙台一番町ビル駐車場>

住所： 宮城県仙台市青葉区一番町3-3-20

TEL： 022-721-3444

営業時間： 8:00~22:00

収容サイズ： 全長 5050mm 全幅 1850mm
全高 1600mm 重量 1600kg

料金： 最初の1時間300円 (以後150円/30分)
1日料金1,000円 (前金制)

ブロックビル駐車場

2007年1月15日に、札幌の第2号物件としてオープンしました。観光名所である大通公園や時計台のあるエリアと繁華街すすきのとのちょうど中間地点にありますので、1日使って札幌の街を楽しめるには最適なロケーションです。また、近隣には大型デパートやオフィスも点在していますので、お買い物や通勤にもご利用いただけます。駐車場では若くて元気なスタッフが笑顔でお迎えています。お買い物に、通勤に、観光に、ぜひご利用下さい！



札幌では現在4ヶ所の駐車場を運営しています

1. NC北専三條ビルパーキング
2. 三井生命札幌共同ビル駐車場
3. ブロックビル駐車場
4. ビヴォパーキング

<ブロックビル駐車場>

住所： 札幌市中央区南二条西2丁目8-1

TEL： 011-231-4210

営業時間： 8:00~22:00

収容サイズ： 全長 5050mm 全幅 1850mm
全高 1600mm 重量 1600kg

料金： 最初の1時間340円 (以後170円/30分)
1日料金1,200円

■ 駐車場での 洗車サービスを開始

2006年12月より、大阪市北区にある堂島ホテルの駐車場をご利用いただくお客様を対象に、車の洗車や掃除を行う新しいサービスを開始しました。

洗車サービスは、駐車場をご利用いただいているお客様からの要望が多く、その声にお応えするために、洗車サービスのノウハウをもつ株式会社JAVAD&Aと提携してサービスを実現しました。洗車サービスは、夜間にお車を停めているお客様を対象に、一般車輛の手洗い洗車であれば、1回当たり¥3,800円というリーズナブルな料金で提供していきます。さらに、月極駐車場としてご契約いただいているお客様には、手洗い洗車を月額¥9,000円で夜間何度でもご利用いただけるサービスも用意しています。

これからも、サービスパーキングとして、より便利で使いやすく、お客様に喜んでいただけるサービスを提供していきます。



■ 飲酒運転防止に関する キャンペーンを実施

飲酒運転による重大な事故の撲滅のため、車社会の一端を担う企業の社会的責任の一環として、飲酒運転防止に関するキャンペーンを行いました。

2006年11月から「飲酒運転No!宣言キャンペーン」として、駐車場に「飲酒運転No!」ステッカーを掲示し、夜間宿泊駐車料金の適用を翌日正午まで延長したほか、自動車運転代行業者の紹介を行いました。また、同年12月から翌年1月8日にかけて東京都港区青山近隣地域の関係各所のご協力のもと、「飲酒運転は犯罪です」キャンペーンを実施しました。キャンペーン期間中は、青山地区の駐車場にて飲酒運転防止を訴求する特性デザイン標識やパネルを展示したほか、近隣飲食店での協力を募る「飲酒運転=犯罪」コースターを配布しました。

今後も、「飲酒運転は運転者本人の意志で100%未然に防げる犯罪である」というメッセージを私達の駐車場から発信することで、飲酒運転による悲しい事故が社会から根絶されるよう、その一助を果たしていきます。



パネル



コースター



株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より当社の事業に格別のお引き立てとご理解をいただきありがとうございますこと、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、関わる人全てがハッピーになる「ハッピートライアングル」を経営理念とし、不稼働資産の有効活用を通じて、ステークホルダーの皆様方の満足が高められるよう真摯に取り組んできたところであります。

しかしながら、当中間期におきましては、当初の計画に実績が到達しない状況となり、平成19年7月期通期業績見通しについても下方修正させていただかざるを得ない結果となりました。株主の皆様にご多大なるご心配とご迷惑をおかけしていることを重ねてお詫び申し上げます。

このような結果となった原因としては、駐車場物件の新規獲得計画が思うように進捗しなかったことや、違法駐車対策の強化がなされた昨年の道路交通法改正を契機として、競合する他の会社の営業活動が活発になったことなどが挙げられます。当期業績に対する株主の皆様のご期待に沿えなかったことは、大変遺憾に思うところでございますが、これを機に改めて自らの強みとすることを見直し、当社ならではの質の高いオペレーションや柔軟な発想で付加価値の高いソリューションを提供できるよう、最大限の努力をしまいる所存です。

駐車場事業、IPO・IRコンサルティング事業、スキー場事業ともに、その発展と育成に努め、当社の着実な成長を達成できるよう、私ども役員・従業員一丸となって邁進してまいりますので、今後とも何卒ご支援ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長 巽 一久

市場概況

当社を取り巻く事業環境は、駐車場事業において改正道路交通法の施行や景気回復の影響もあり附置義務駐車場の不稼働部分が減少したほか、地価高騰によるオフィスビルなどの賃料が上昇しました。その結果、当社グループがオーナーから賃貸する不稼働駐車場の賃料が上昇するなど、業績へのマイナス要因が発生しました。スキー場事業では、暖冬・小雪の影響を受け全面滑走可能時期が年末年始となり、来場者数にも影響を及ぼしました。

決算のポイント

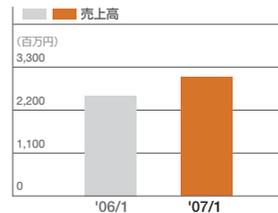
売上高は、駐車場事業およびIPO・IRコンサルティング事業の売上が増加したことにより、3,280,292千円(前年同期比25.0%増)となりました。営業利益は410,913千円(前年同期比22.0%減)となりました。これは、前四半期に物件拡大を行いましたが高収益、赤字物件が含まれており、その結果売上総利益が伸びなかったこと。物件拡大のために営業人員を増加したことや、スキー場費用、POS費用など販売管理費が増加したため、営業利益は減益となりました。

経常利益は、投資有価証券売却益や私募ファンドからの分配金である匿名投資組合利益等を計上したものの、前期に発生した投資有価証券の売却益が多額であったことから、結果として536,457千円(前年同期比36.6%減)となりました。その結果、当期純利益は315,068千円(前年同期比36.9%減)と株式上場後初めての減益となりました。

セグメント別の状況

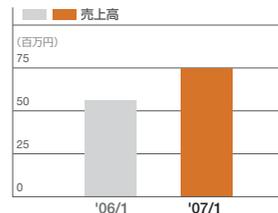
■ 駐車場事業

- 売上高 3,039百万円
- 前年同期比 18.4%増



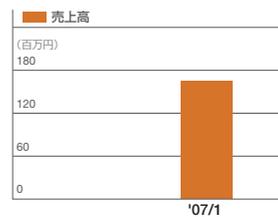
■ IPO・IRコンサルティング事業

- 売上高 75百万円
- 前年同期比 33.9%増



■ スキー場事業

- 売上高 165百万円
- 前年同期比 ー

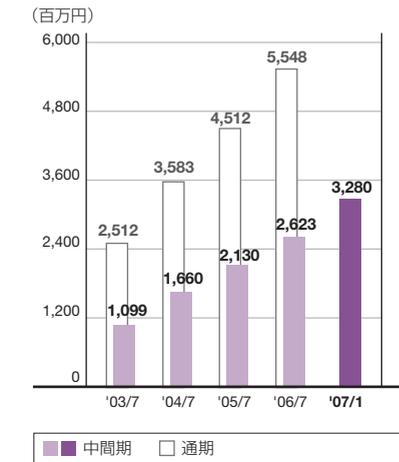


駐車場事業では、駐車場オーナー、駐車場ユーザー、そして社会にとってメリットのあるソリューションを提供することが自らの使命であるという認識のもと、常に先進的な駐車場サービスの提供に取り組んでいます。

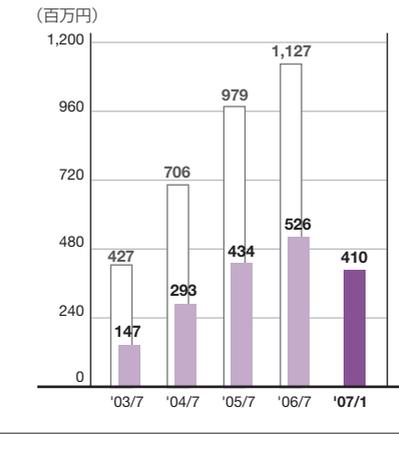
IPO・IRコンサルティング事業では、優れたビジネスモデルを有し、当社の支援でさらなる飛躍ができるベンチャー企業をターゲットとして、企業価値の向上を支援しています。

スキー場事業では、過去に莫大な投資をしたものの利用客が減少し、経営難に陥っているスキー場がある一方で、スキー場の施設やサービスに満足できずに自然とスキー場から遠ざかる人がいるなど駐車場事業と同様にさまざまなギャップが存在しており、連結子会社である日本スキー場開発(株)がこれらのギャップを解消し、スキー場の再生を目指しています。

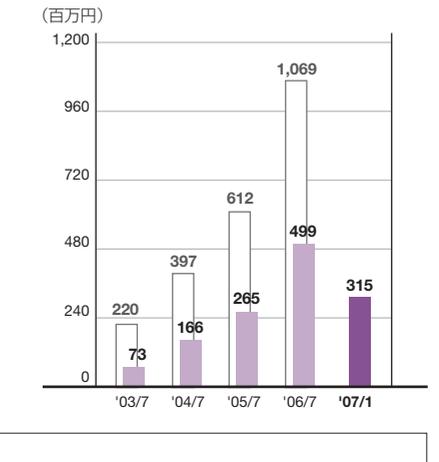
売上高



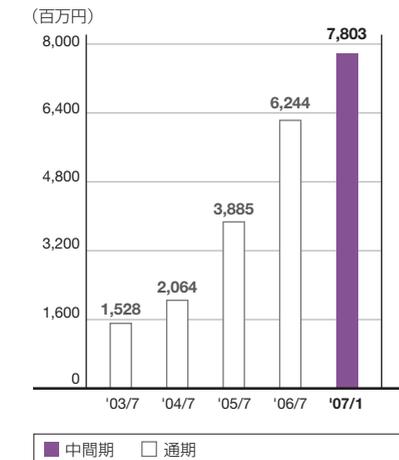
営業利益



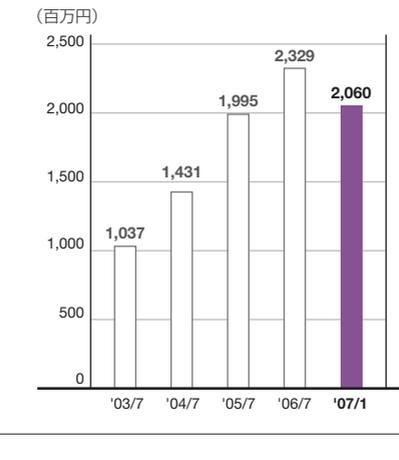
中間(当期)純利益



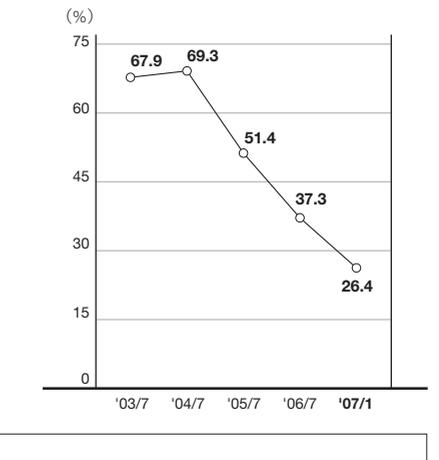
総資産



純資産



自己資本比率



財務情報

連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	前中間期	当中間期	前期
	平成18年1月31日	平成19年1月31日	平成18年7月31日
(資産の部)			
流動資産	1,597,573	3,207,912	3,152,425
現金及び預金	1,080,653	1,687,897	2,236,733
売掛金	71,637	132,765	76,694
営業投資有価証券	226,574	803,966	352,932
匿名組合出資金	-	200,000	200,000
棚卸資産	-	6,915	-
繰延税金資産	14,962	30,543	57,193
前渡金	82,296	106,118	90,002
前払費用	26,942	49,940	18,240
短期貸付金	50,000	66,000	50,000
その他	44,506	123,764	70,627
固定資産	2,894,895	4,595,906	3,092,309
有形固定資産	43,777	790,405	61,288
建物及び構築物	10,310	510,518	13,555
機械装置	9,177	33,490	8,510
車両運搬具	-	13,795	4,014
工具器具備品	24,290	91,073	35,207
土地	-	141,526	-
無形固定資産	41,756	60,799	39,311
ソフトウェア	38,801	60,145	33,931
ソフトウェア仮勘定	2,200	-	4,675
その他	755	654	704
投資その他の資産	2,809,360	3,744,701	2,991,709
投資有価証券	2,176,576	2,642,557	1,954,683
匿名組合出資金	407,794	697,124	731,104
関係会社出資金	-	31,287	-
長期貸付金	-	64,000	-
敷金及び保証金	224,606	256,449	240,764
繰延税金資産	249	53,147	65,023
その他	133	133	133
資産合計	4,492,468	7,803,818	6,244,734

科 目	前中間期	当中間期	前期
	平成18年1月31日	平成19年1月31日	平成18年7月31日
(負債の部)			
流動負債	803,402	3,625,659	1,706,119
買掛金	5,898	78,392	42,212
短期借入金	-	1,700,000	300,000
一年以内返済予定の長期借入金	133,200	1,110,532	433,200
未払金	35,960	117,170	46,391
未払費用	37,659	48,860	36,843
未払法人税等	352,016	227,939	561,230
未払消費税等	35,232	25,691	50,119
繰延税金負債	-	-	2,508
前受金	149,324	193,881	166,608
預り金	43,953	120,312	67,004
その他	10,157	2,880	-
固定負債	1,513,518	2,117,695	2,208,809
長期借入金	1,033,400	1,792,035	1,916,809
繰延税金負債	214,425	-	-
預り保証金	265,693	325,660	292,009
負債合計	2,316,921	5,743,354	3,914,928
少数株主持分	-	-	-
(資本の部)			
資本金	487,852	-	-
資本剰余金	355,149	-	-
利益剰余金	988,432	-	-
その他有価証券評価差額金	344,112	-	-
資本合計	2,175,547	-	-
負債、少数株主持分及び資本合計	4,492,468	-	-
(純資産の部)			
株主資本	-	2,109,730	2,437,128
資本金	-	532,256	511,578
資本剰余金	-	387,944	367,266
利益剰余金	-	1,189,528	1,558,283
評価・換算差額等	-	△ 49,266	△ 107,670
その他有価証券評価差額金	-	△ 49,266	△ 107,670
新株予約権	-	-	347
少数株主持分	-	-	-
純資産合計	-	2,060,463	2,329,805
負債純資産合計	-	7,803,818	6,244,734

連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	前中間期	当中間期	前期
	平成17年8月1日から平成18年1月31日まで	平成18年8月1日から平成19年1月31日まで	平成17年8月1日から平成18年7月31日まで
売上高	2,623,765	3,280,292	5,548,486
売上原価	1,512,611	2,050,850	3,208,311
売上総利益	1,111,153	1,229,441	2,340,174
販売費及び一般管理費	584,229	818,527	1,212,256
営業利益	526,924	410,913	1,127,918
営業外収益	327,185	148,531	718,052
受取利息	686	2,931	3,170
受取配当金	11,920	13,627	24,207
投資有価証券売却益	266,786	98,035	603,324
匿名組合投資利益	47,391	30,736	84,128
雑収入	400	3,199	3,221
営業外費用	7,791	22,987	21,670
支払利息	4,513	19,597	14,728
新株発行費	2,934	-	3,559
株式交付費	-	272	-
投資有価証券売却損	-	2,696	-
創立費	343	-	343
匿名組合投資損失	-	-	3,036
雑損失	-	420	2
経常利益	846,318	536,457	1,824,299
特別利益	130	7,429	130
固定資産売却益	-	3,999	-
新株予約権戻入益	-	3,429	-
貸倒引当金戻入益	130	-	130
特別損失	568	2,510	18,044
固定資産除却損	568	2,510	724
事務所原状回復費	-	-	1,703
事故負担金	-	-	15,616
税金等調整前中間(当期)純利益	845,880	541,376	1,806,385
法人税、住民税及び事業税	353,717	230,359	753,344
法人税等調整額	△ 7,464	△ 4,051	△ 16,436
中間(当期)純利益	499,626	315,068	1,069,476

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	前中間期	当中間期	前期
	平成17年8月1日から平成18年1月31日まで	平成18年8月1日から平成19年1月31日まで	平成17年8月1日から平成18年7月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	57,125	△ 277,426	346,696
税金等調整前中間(当期)純利益	845,880	541,376	1,806,385
減価償却費	10,226	35,399	23,958
貸倒引当金の減少額	△ 130	-	△ 130
固定資産売却益	-	△ 3,999	-
固定資産除却損	568	2,510	724
投資有価証券売却益	△ 266,786	△ 98,035	△ 603,324
投資有価証券売却損	-	2,696	-
匿名組合投資利益	△ 47,391	△ 30,736	△ 84,128
匿名組合投資損失	-	-	3,036
新株発行費	481	-	3,559
株式交付費	-	272	-
株式報酬費用	-	3,082	347
新株予約権戻入益	-	△ 3,429	-
受取利息及び受取配当金	△ 12,606	△ 16,559	△ 27,377
支払利息	4,513	19,597	14,728
売上債権の減少額又は増加額(△)	27,310	△ 56,070	22,252
棚卸資産の増加額	-	△ 6,915	-
営業投資有価証券の増加額	△ 172,446	△ 229,533	△ 374,486
前払費用の減少額又は増加額(△)	△ 4,065	△ 29,467	5,864
前渡金の増加額	△ 10,457	△ 16,116	△ 18,163
差入保証金の減少額又は増加額(△)	1,641	△ 13,894	△ 11,657
仕入債務の増加額又は減少額(△)	△ 46,719	36,179	△ 10,404
前受金の増加額	20,592	27,273	37,877
未払金の増加額又は減少額(△)	△ 17,918	47,508	△ 6,873
預り金の増加額	1,310	53,308	24,360
預り保証金の増加額	9,856	33,650	36,172
未払費用の増加額	24,042	10,985	22,217
未払消費税等の増加額又は減少額(△)	△ 3,126	△ 24,185	11,760
その他	△ 25,679	△ 28,276	△ 35,740
小計	339,094	256,619	840,958
利息及び配当金の受取額	12,606	16,559	27,377
利息の支払額	△ 4,830	△ 20,798	△ 15,264
法人税等の還付額	-	29,657	-
法人税等の支払額	△ 289,744	△ 559,465	△ 506,375
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 85,740	△ 1,581,237	△ 735,395
有形固定資産の取得による支出	△ 13,553	△ 768,816	△ 39,359
有形固定資産の売却による収入	-	17,000	-
有形固定資産の除却による支出	-	△ 1,932	-
無形固定資産の取得による支出	△ 3,154	△ 28,918	△ 6,915
投資有価証券の取得による支出	△ 706,808	△ 1,898,984	△ 2,041,315
投資有価証券の売却による収入	738,051	1,046,306	1,944,939
投資有価証券の償還による収入	-	102,468	-
匿名組合出資による支出	△ 140,896	△ 32,806	△ 696,971
匿名組合出資返還・分配による収入	99,401	66,235	165,867
短期貸付による支出	△ 50,000	△ 16,000	△ 50,000
長期貸付による支出	-	△ 64,000	-
敷金の預入による支出	△ 9,422	△ 2,171	△ 18,933
敷金の回収による収入	669	380	7,320
その他	△ 26	-	△ 26
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 462,779	1,309,827	1,053,385
短期借入金の増加額	-	1,400,000	300,000
長期借入による収入	200,000	800,000	1,500,000
長期借入返済による支出	△ 33,400	△ 247,433	△ 150,000
株式の発行による収入	44,934	41,083	77,699
配当金の支払額	△ 674,314	△ 683,823	△ 674,314
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	△ 491,394	△ 548,836	664,686
現金及び現金同等物の期首残高	1,572,047	2,236,733	1,572,047
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	1,080,653	1,687,897	2,236,733

株 式 情 報

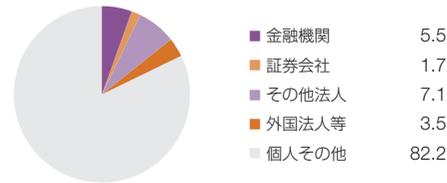
株式の状況 (平成19年1月31日現在)

◎ 会社が発行する株式の総数	12,564,720 株
◎ 発行済株式総数	3,425,667 株
◎ 株主数	58,039 名

◎ 主要大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
巽 一久	1,110,587	32.42
岡田建二	156,871	4.58
トヨタ自動車株式会社	119,070	3.48
川村憲司	88,889	2.59
氏家太郎	79,585	2.32
杉岡伸一	59,660	1.74
日本証券金融株式会社	49,776	1.45
株式会社穴吹工務店	35,590	1.04
ザ チェース マンハッタン バンク 385032	35,000	1.02
ドイツバンク アーゲー ロンドン ビービー ファーム アカウント 614	26,284	0.77

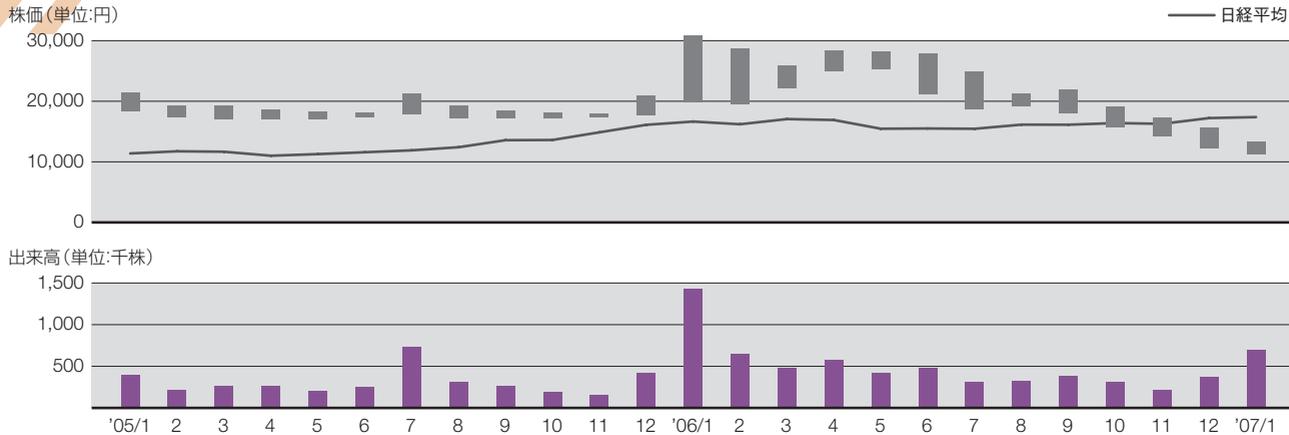
所有者別株数状況 (%)



所有者別分布状況 (%)



株 価 デ ー タ (平成19年1月31日現在)



会 社 概 要

会社概要 (平成19年1月31日現在)

◎ 商号	日本駐車場開発株式会社
◎ 本社所在地	大阪市中央区北浜3-7-12 東京建物大阪ビル
◎ 設立	1991年12月
◎ 資本金	532百万円
◎ 従業員数	165名(連結)
◎ 事業内容	駐車場に関する総合コンサルティング

役員 (平成19年1月31日現在)

代表取締役社長	巽 一久
取締役副社長	川村 憲司 氏家 太郎
常務取締役	岩本 竜二郎
取締役	岡田 建二
社外取締役	古川 裕倫 福住 俊男
常勤監査役	海老名 利雄
監査役	末久 皓一 篠崎 芳明

拠 点 (平成19年1月31日現在)

◎ 本社	大阪市中央区北浜3丁目7番12号 東京建物大阪ビル	◎ 横浜支社	横浜市中区羽衣町2丁目7番10号 関内駅前マークビル
◎ 管理本部	大阪市中央区北浜1丁目8番16号 大阪証券取引所ビル	◎ 名古屋支社	名古屋市中区栄3丁目1番1号 広小路第一生命ビルディング
◎ 札幌支社	札幌市中央区北一条西4丁目2番2号 札幌ノースプラザ	◎ 京都支社	京都市下京区河原町通松原上ル2丁目 富永町338番地 京都四条河原町ビル
◎ 仙台支社	仙台市青葉区一番町2丁目5番22号 穴吹第19仙台ビル	◎ 広島支社	広島市中区本通6番11号 明治安田生命広島本通ビル
◎ 東京支社	東京都千代田区丸の内1丁目8番1号 丸の内トラストタワーN館	◎ 福岡支社	福岡市中央区天神1丁目9番17号 ダヴィンチ福岡天神ビル